



姿勢も性格も真つ直ぐさを好む。韓国の

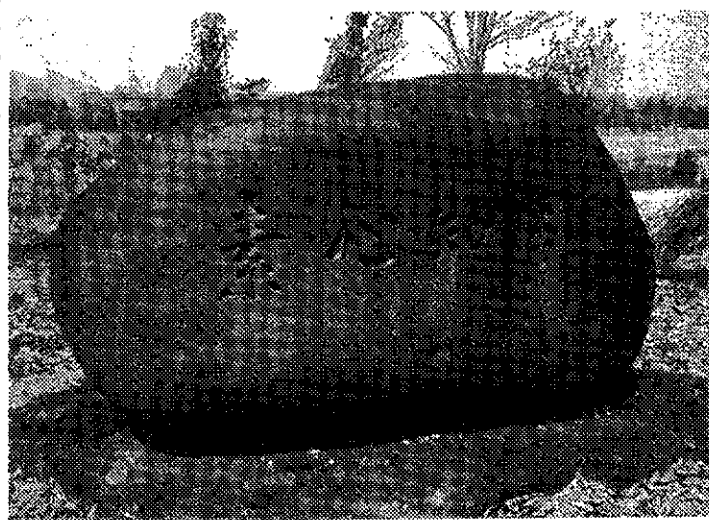
儒教文化の影響を諸に受けているせいか、筋を曲げるのが嫌いな性格で、

妥協手下だが、反面、中庸は重んじているという

姜奉植(カン・ボンシツク) 共通教育センター長は、韓国の平澤(ピョンテク) 高等学校卒。昭和60年に日本に留学。横浜市立大学文学部文科人文課程を卒業した。その後、東北大学大学院国際文化研究科(国際文化交流論専攻) 博士前期課程修了。韓国の慶尚(キョンサン) 大学大学院日本学科博士課程を修了した。

平成10年4月から同16年3月まで岩手県立大学総合政策学部助教に就任、同年4月から教授になり、平成18年4月から共通教育センター教授に。そして、ことし4月から同センター長に就任した。

1970年代初めの頃に韓国で高校に通っていた。当時、高校で日本の大学入試問題を使って受験勉強をしていたことがあり日本の大学と言えば、入試問題のレベルが



建学の理念を伝える「素心知困の石碑」

韓国より遙かに高くて、まだまだ韓国は日本の大学には及ばないな、と、日本の大学は一目置かれる存在だった。しかし、あの頃から約40年、今の日本の大学はどうなんだろう? 大学入試以来、未曾有の全入時代を迎えた今、学生たちの学力低下問題の深刻さが露呈しており、かつて憧れの的であった日本の大学を想い出すと、隔世の感が否めない、という。

現職に就任以来、教養教育における外国語教育の改革に取り組んでいる。とくに力を入れてるのが英語教育。日常会話ぐらひは話せる英語教育の実現を目指して、連日奮闘している。

また、法人化についてはとくに意見はないという。大学が大学として当たり前なこと、即ち、良い教育と研究を普段からきちんとやっていたら、どんな波風が吹いてきても大学の屋台骨は揺らぐことはないと考え、とキツパリ。

趣味は、若い頃はスポーツ。高校までは球技種目が好きで、その中でもバレーボールや卓球は選手並みの腕前であったそう。高卒後はビリヤードに夢中になり、スリクッションやナインボールが楽しめるほどの腕前にもなったが、来日して30年くらい経った今は、半分日本人になってしまったのか、つい無趣味になってしまった、と反省。気分転換を兼ねての楽しみを強いてあげれば、月1回程度のカラオケぐらい。歌う歌は「ど」のつく演歌がほとんど。理由は、日本の演歌が韓国の民謡やトロット音楽に通じるものがあり、胸にじーんとくるから、とか。

また、アルコール関係はかなりイケる口で、本物の味を嗜む。量的には強くないが、好きな酒類は、アルメニアコニヤック、シングルモルトウイスキー、白酒、ワインなどなど。もちろん、水などで割って飲むことなどせず、ストレートを楽しむのが常。日本酒なら熟爛を好むこだわりも。一方、タバコは全く吸わないそうだ。

(以下、次号につづく)